

虹の彼方に

大野俊三 ～パッション&ハーモニー～

ジャズで奏でる希望の調べ



1974年に世界的ジャズ・ドラマーのアート・レイキーに誘われて「3カ月位の勉強のつもりで」ジャズのメッカ、ニューヨークへ渡った大野俊三。またたく間にその才能が開花し、レイキーの楽団への参加を皮切りに、ノーマン・コナーズとの3年間に及び大規模なワールド・ツアーへの参加、また、グループでのアルバムだけでなく、シングルカットされた自身の曲「バブルス」で100万枚突破のセールスを記録するなど、トップ・トランペッターの仲間入りを果たしました。その後、アメリカをベースに活動を繰り広げ、南米や欧州、もちろん日本をはじめとしたアジアなどで広く活躍中です。2001年には「ジャズを通して、アジアとアメリカを結んだ功績」を高く評価され、ユニバーサル・ジャズ・コアリション&ニューヨーク・ジャズ・セン

ターから、「アジア・アメリカ・ジャズコネクション音楽賞」の第1回受賞者として選ばれました。

そんな飛ぶ鳥を落とす勢いで成功を収める中、1988年に交通事故に巻き込まれ、前歯を失い、上唇の筋肉を断裂という、トランペッターとして致命的な傷を負い、さらに1996年には扁桃ガンの大手術・放射線治療を受けるなど命の危険にもさらされ、プロの演奏家として「再起不能」とまで言われる不運に何度も見舞われました。しかし、「トランペットを吹きたい」という強い思いから、楽器を一から始め直す状態だったにも関わらず、見事な復活を遂げ、バスター・ウィリアムのクインテットに参加するまでの姿は、「ビートたけし Presents 奇跡体験!アンビリバボー」で紹介され、全

国に感動を届けました。

人生のどん底から幾多の苦難を乗り越えた大野俊三は、トランペットを吹ける感謝を常に抱き、「生まれて初めてジャズを聴いた人にも響く表現」を目指しています。90年代からは、自らのルーツ、日本の曲をジャズにアレンジした演奏に着手。抒情的な旋律とジャズのスピリッツが融合した独自の世界を切り開き、「椰子の実」「荒城の月」「月の砂漠」「赤とんぼ」などの抒情歌を素材にしたアルバムも発表。今回のコンサートでも、ジャズのスタンダードナンバー、映画のテーマ曲、ポップス、日本の曲、オリジナル曲と、ジャンルの境界を超えた名曲の数々を演奏します。世界の俊三が奏でる温かい音色で、心のリフレッシュをしてみませんか。

出演者	大野俊三(トランペット)、野力奏一(ピアノ)、佐藤慎一(ベース)、小山太郎(ドラムス)
予定曲目	ベサメ・ムーチョ、マリア(ウェストサイド物語より)、ファイアフライ(映画「ほたるの星」より)、スカボロー・フェア(サイモン&ガーファンクル)、バブルス、ムサシ、赤とんぼ、ファーストステップ、虹の彼方に、他
予定開催地域	中部10都市